



南阿蘇村立南阿蘇中学校 学校だより

ハーモニー

Since 2016



R2. 10. 23(金) No.31 小柳 弘志

唯一無二の駅伝大会

今年度、唯一、阿蘇郡市中体連主催行事として行われた大会です。学校対抗として唯一実施された大会でもあります。阿蘇市 農村公園あぴかを会場として9時20分に開会式が行われました。新型コロナウイルス対策で各学校1人だけ、グラウンド中央部に集まり、開会宣言、選手宣誓が行われた後、午前中に女子の競技、午後に男子の競技が行われました。

毎年、陸上部以外にも選手を募り、南阿蘇中代表として出場しています。今年は体育大会を10月11日に実施した影響で、他の学校の取り組みと比べると練習の期間が極端に短く、大会当日にたすきがつながるか心配していましたが、結果は女子が総合5位(去年8位)、男子が総合4位(去年4位)でした。特に、男子の4kmコースを走った田尻楓雅くん、3kmコースを走った後藤拓夢くんは去年も同じ距離の区間を走り、それぞれ52秒、10秒も早い記録を残しました。また、後藤拓夢くんは区間賞に輝きました。女子は全員陸上部以外で駅伝大会出場経験はありません。それでも、選手以外の補助員や、応援参加者全員の力のハーモニーにより、このすばらしい結果を勝ち取りました。

代表として走り抜いた選手を紹介します。

男子の部	氏名(学年)
1区(4km)	田尻 楓雅(3年)
2区(3km)	金瀬 拓海(3年)
3区(3km)	後藤 拓夢(3年)
4区(3km)	榎 隼輔(3年)
5区(3km)	藤原 笠羽(2年)
6区(4km)	峰 喜弥(2年)

女子の部	氏名(学年)
1区(3km)	古澤 亨佳(1年)
2区(2km)	下田 聖椰(2年)
3区(2km)	福山 美菜(2年)
4区(2km)	高宮古斗乃(1年)
5区(3km)	東 莉那(2年)

今年の記録で県大会出場の2位入賞まで女子で23秒、男子で2分10秒です。「南中生に成し遂げられないことはない。」新しい目標が見つかりそうです。

次の目標は学力向上と定着です

10月22～23日で高校説明会を本校体育館で行いました。全部で11の高校が来校

し、2～3年生に説明をしていただきました。行きたい高校が決まった時に、学力不足で断念しないように、今の学力をさらに高めていきましょう。そのための定期テスト等が近づいてきました。人から言われて学習するより、自ら進んで学習した方が効果が高いそうです。先生や友達からアドバイスを聞き、自分で工夫して学習に挑戦してください。また、多くのことを学び、知ることが身のまわりのいじめや差別、偏見をなくすことにも繋がっていきます。裏面に去年の文集「しらかわ」に載っている佐々木元くんの作文を載せています。



(開会式の様子)



(女子スタート)



(男子スタート)



(すばらしい快晴の中、南中のテント場所です)

「いじめをなくすために心がけていること」

南阿蘇中学校二年 佐々木 元

(去年の作文です)

いじめとは何かを考えたとき、相手にいやなことをしたり、仲間はずれにしたりすることが、いじめだと考えています。そんなことはしてはいけない、あってはいけない、とみんなが思っています。それでも、いじめはなくならないのです。いじめをなくすために人権学習や人権集会を行ってきているはずなのに。なぜ、なくならないのでしょうか。

私は、自分のクラスにはいじめはなく、みんな仲がいいと思っています。しかし、周りを見渡すと、「あいつはいやだ」「あの人たちとは仲がよくない」という声が聞こえてきます。私が気づいていないだけで、いじめが起きているのかもしれません。

その言葉を改めてよく考えてみると、「そんなことは相手と話してみないと分からない」というものが多いことに気づきます。実際に、私も尋ねてみて誤解が解けたことが多かったです。

私がいるクラスの中には、三十四人の仲間がいます。みんなそれぞれ違う考えをもっています。相手への考えも人によって違います。育った環境が違うから、当たり前のことです。相手のことを完全に理解することは難しいと思います。そういう思いがあるからこそ、私はあることを心がけています。それは、できるだけみんなに「自分から声をかける」「自分から話しかける」ことです。

私は、五月に席替えをして、新しい班の班長になりました。今まであまり話したことがなかった太朗君とも、同じ班で隣の席になりました。私は、以前からもっと太朗君のことを知りたいと思っていました。なぜなら、私は、太朗君はあまりクラスのことが好きではないのかなと思っていたからです。

あるとき、太朗君が描いていた絵が、自分も知っているキャラクターだったので、話しかけてみるチャンスだと思い、「これってあのキャラクターだよね。」と、声をかけてみました。太朗君は、うなずくだけでした。しかし、私はさらにそのこと以外にも、いくつか質問をしました。話していくうちに、太朗君からも自分の好きなキャラクターについて話してくれるようになってきました。また、太朗君は、何か絵を描くと、私の腕をつんつんして、その絵を見せてくれるようになりました。二人で話していると、周りの友達も一緒に話に入ってくるようになりました。

私は、自分のことも話すようにしています。いきなり「話して」では相手もびっくりするからです。そして、みんなが今思っていること、考えていること、何でも聴いています。これはとてもいいことだと思っているし、友達との関係もよくなると思います。友達の思いや考えについて話すときには、相手の立場に立って話すようにしています。さらに、積極的に相手とのコミュニケーションを取ることも大切だと思います。

相手の話を聴きながらいつも思うことは、分かるところもあるけれど、なぜ、と疑問に思うところもあります。本当に相手を理解する、お互いが理解し合うためには、これまで以上に多くのことを学び、知る必要があります。

お互いを理解し合えれば、相手も自分もこれまで以上にあたたかくなっています。話し合いをして、相手のことを分かり合えたときには、最後、自然と笑顔になります。

みんながお互いのことをもっと知っていけば、きっといいクラスができると思っています。これからもみんなと楽しい学校生活を送りたいです。